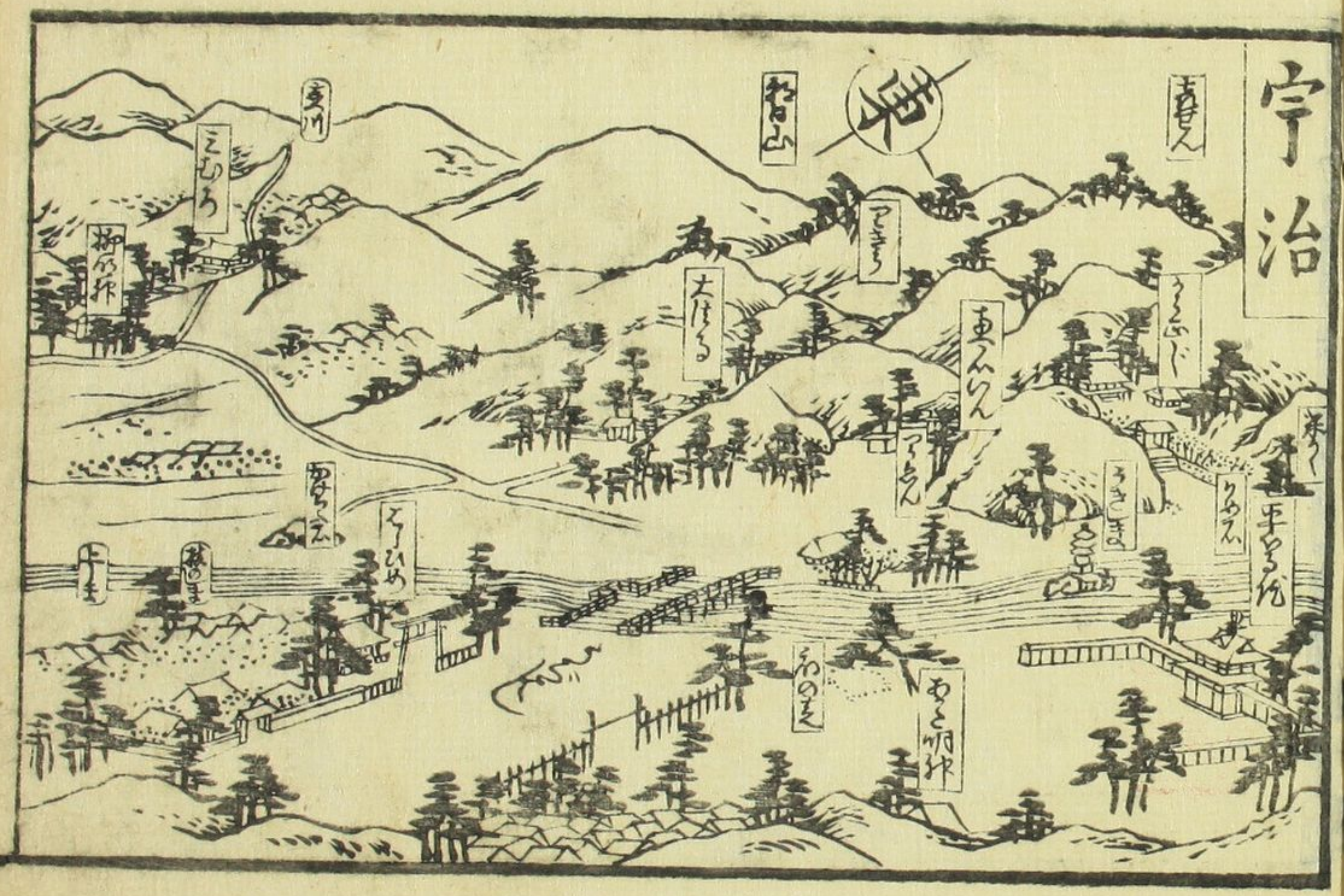


花名所

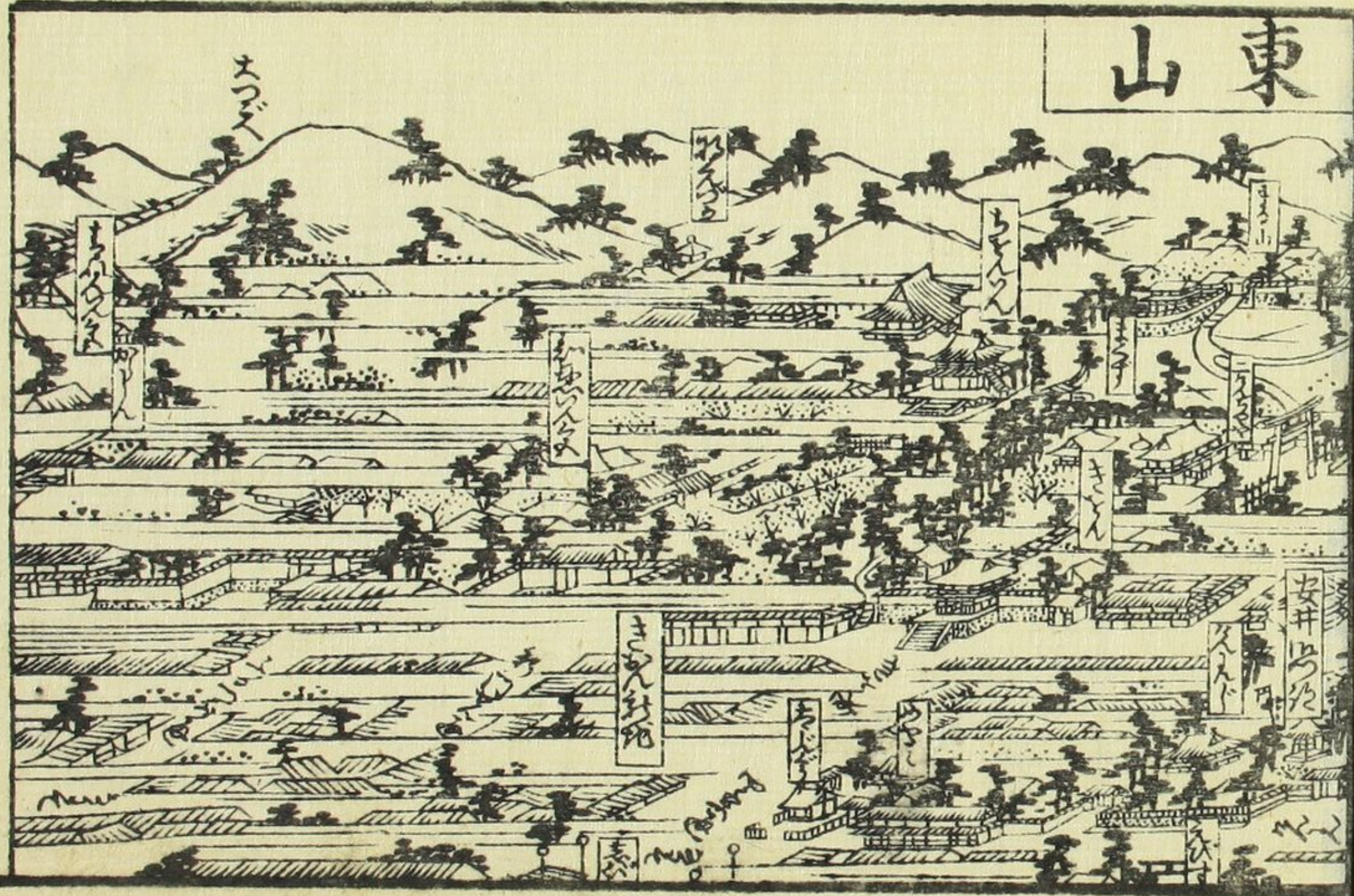
都の巽しるしより長ながむねの
とほく坤くまより



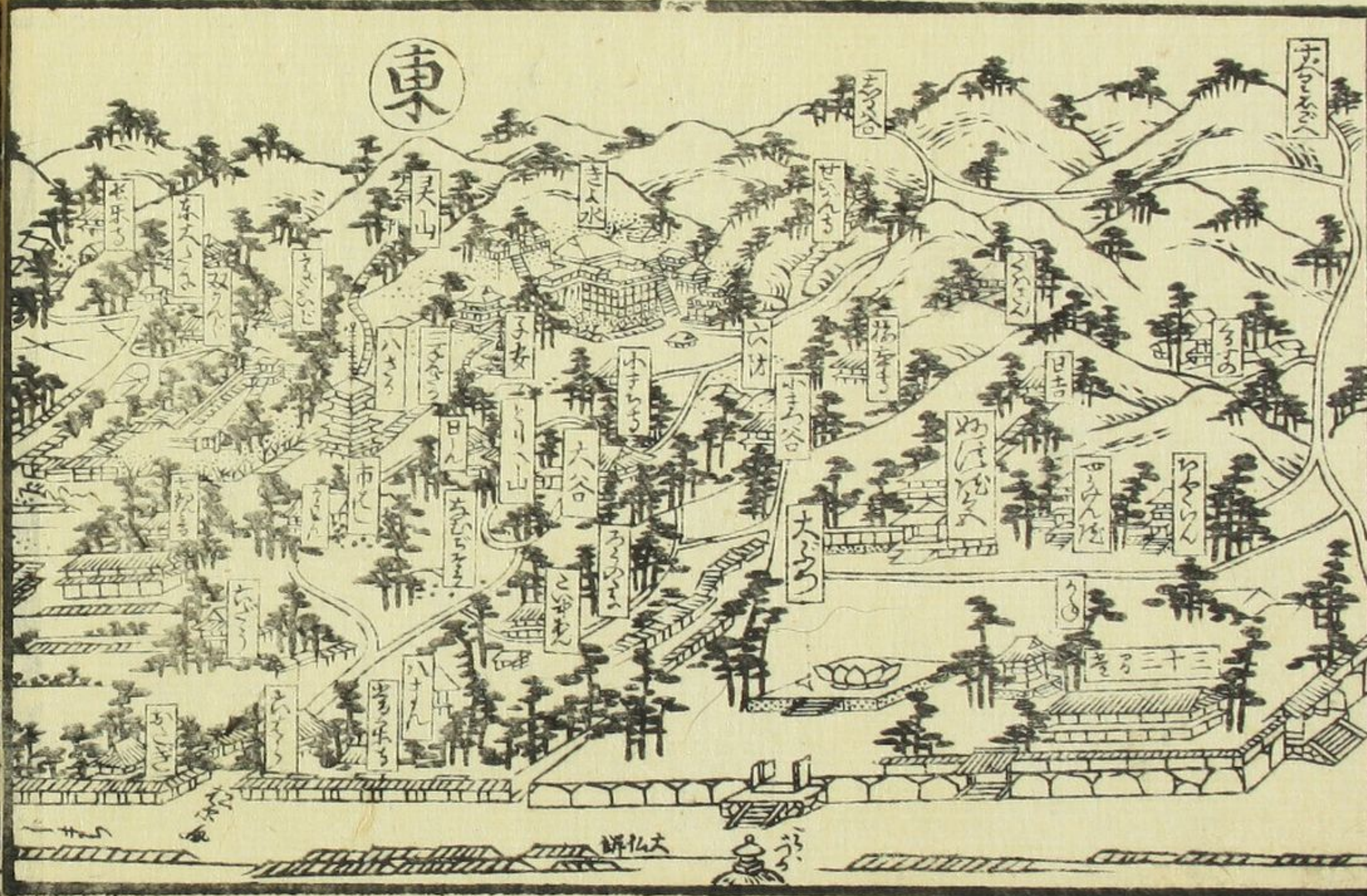
宇治

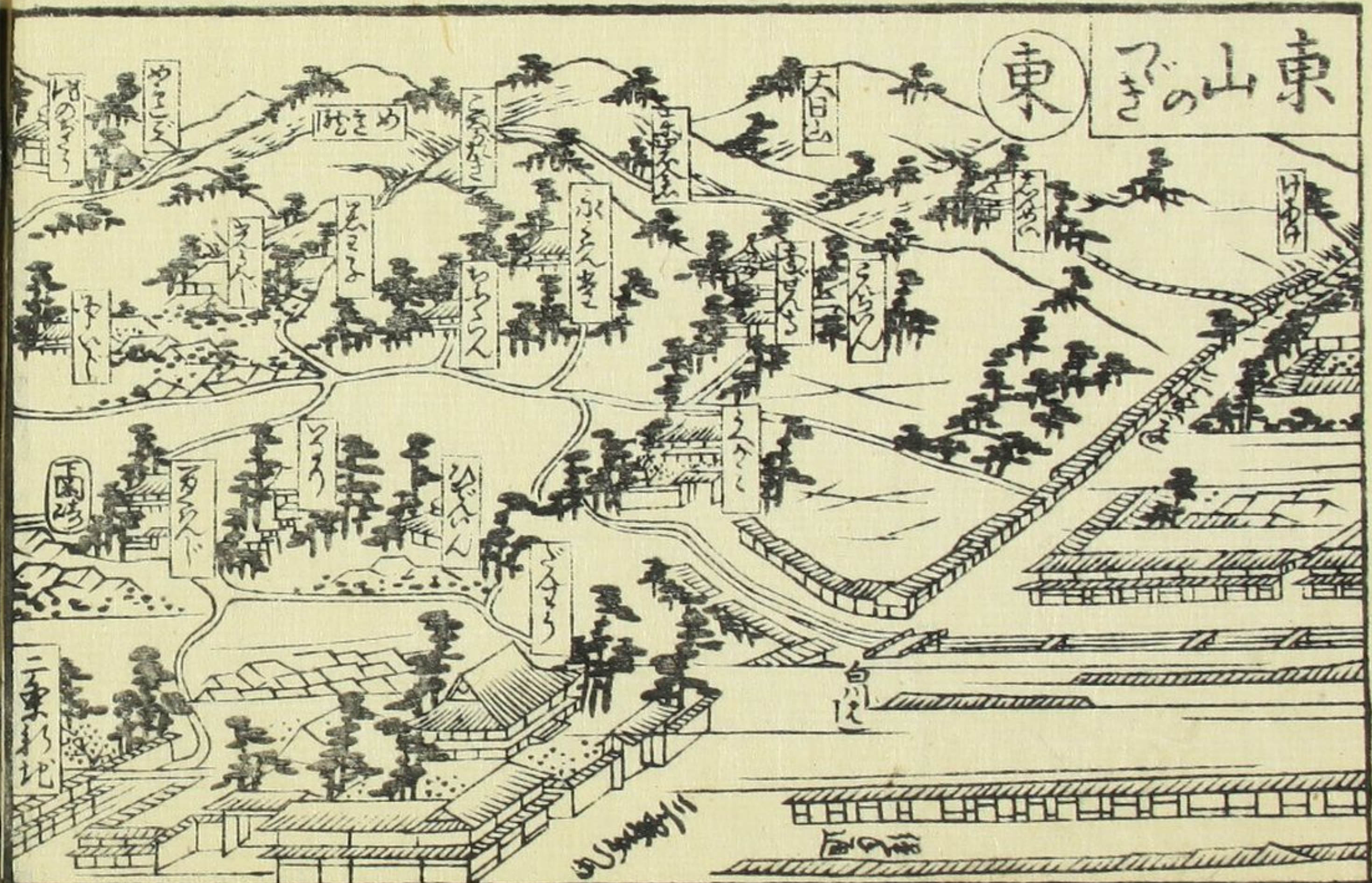
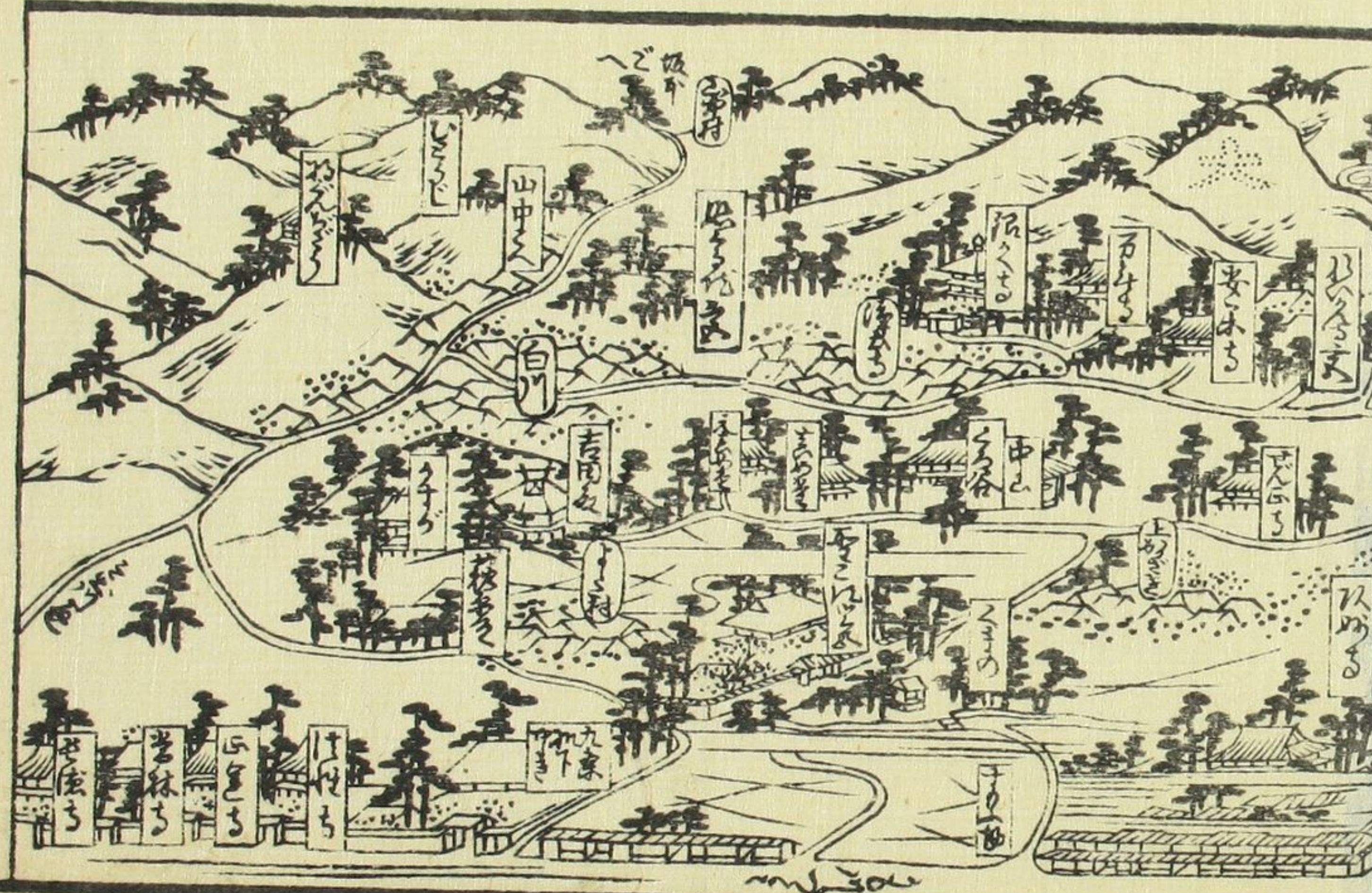


山東

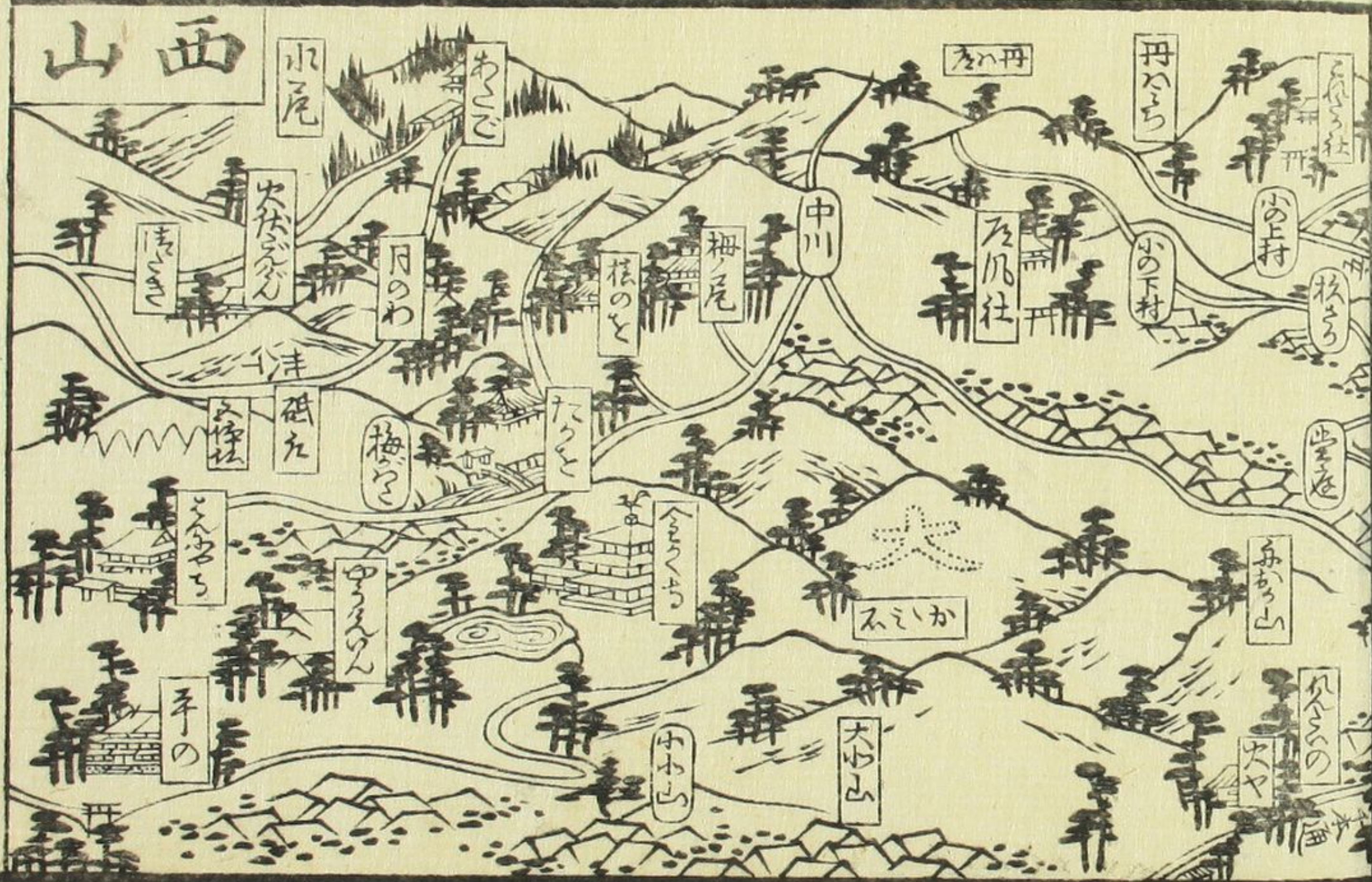


東

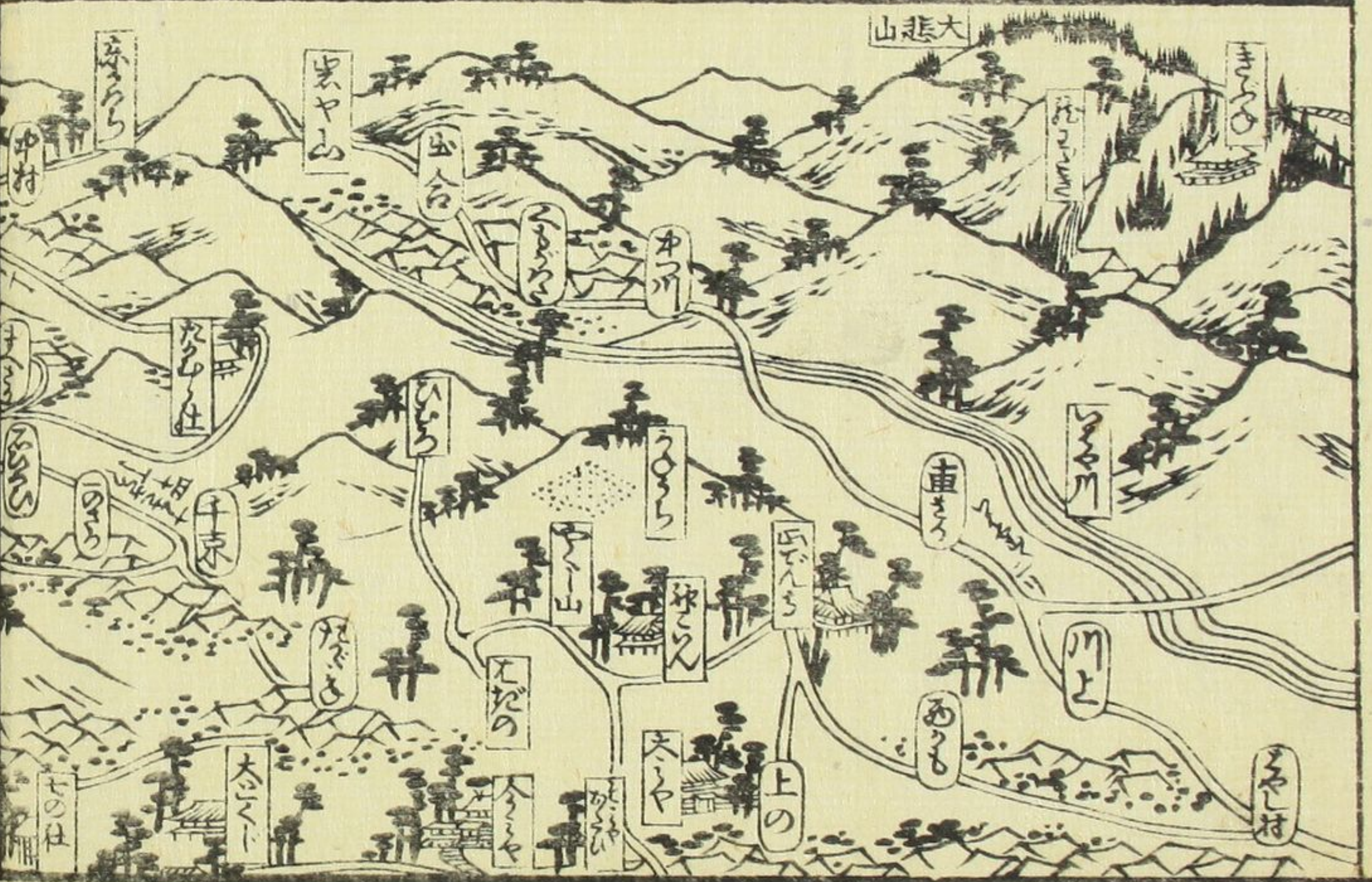


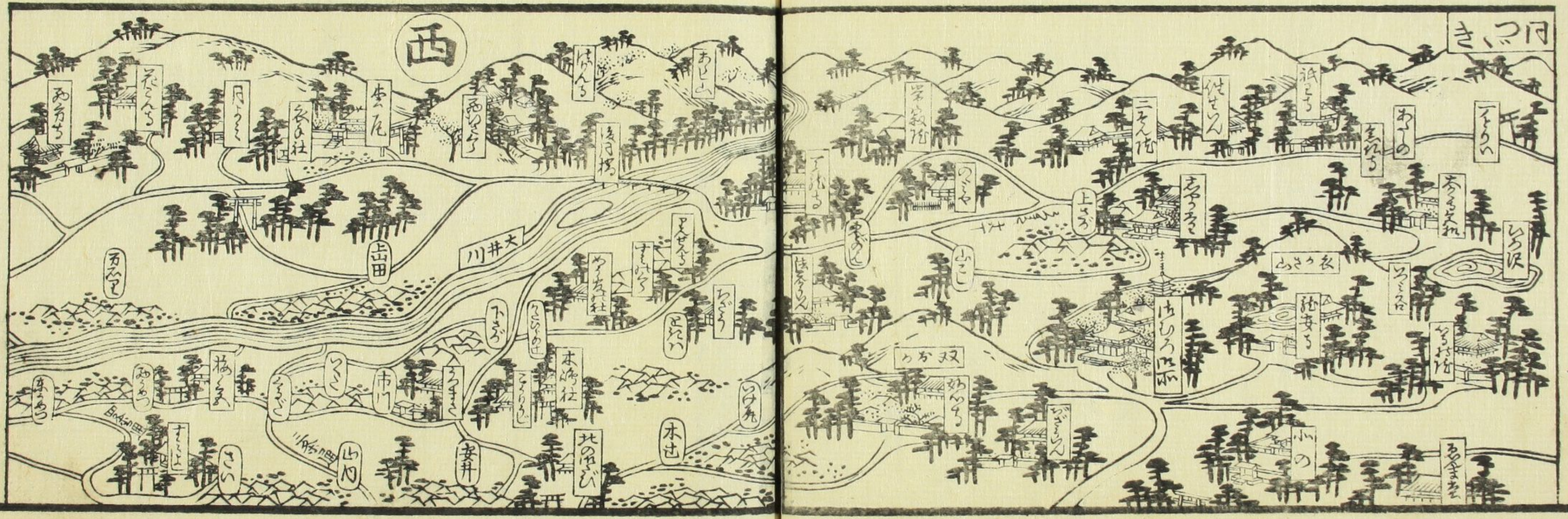


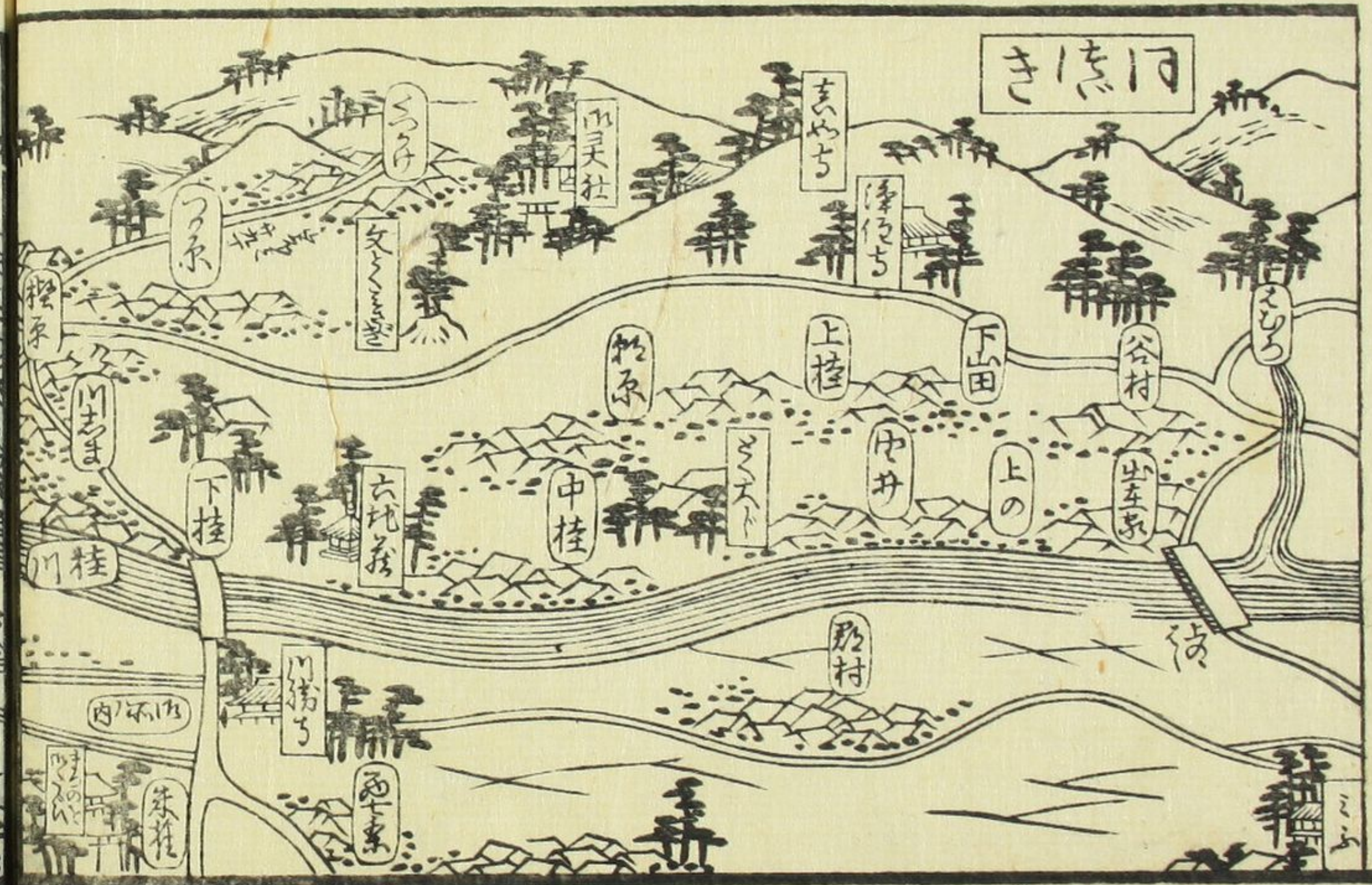
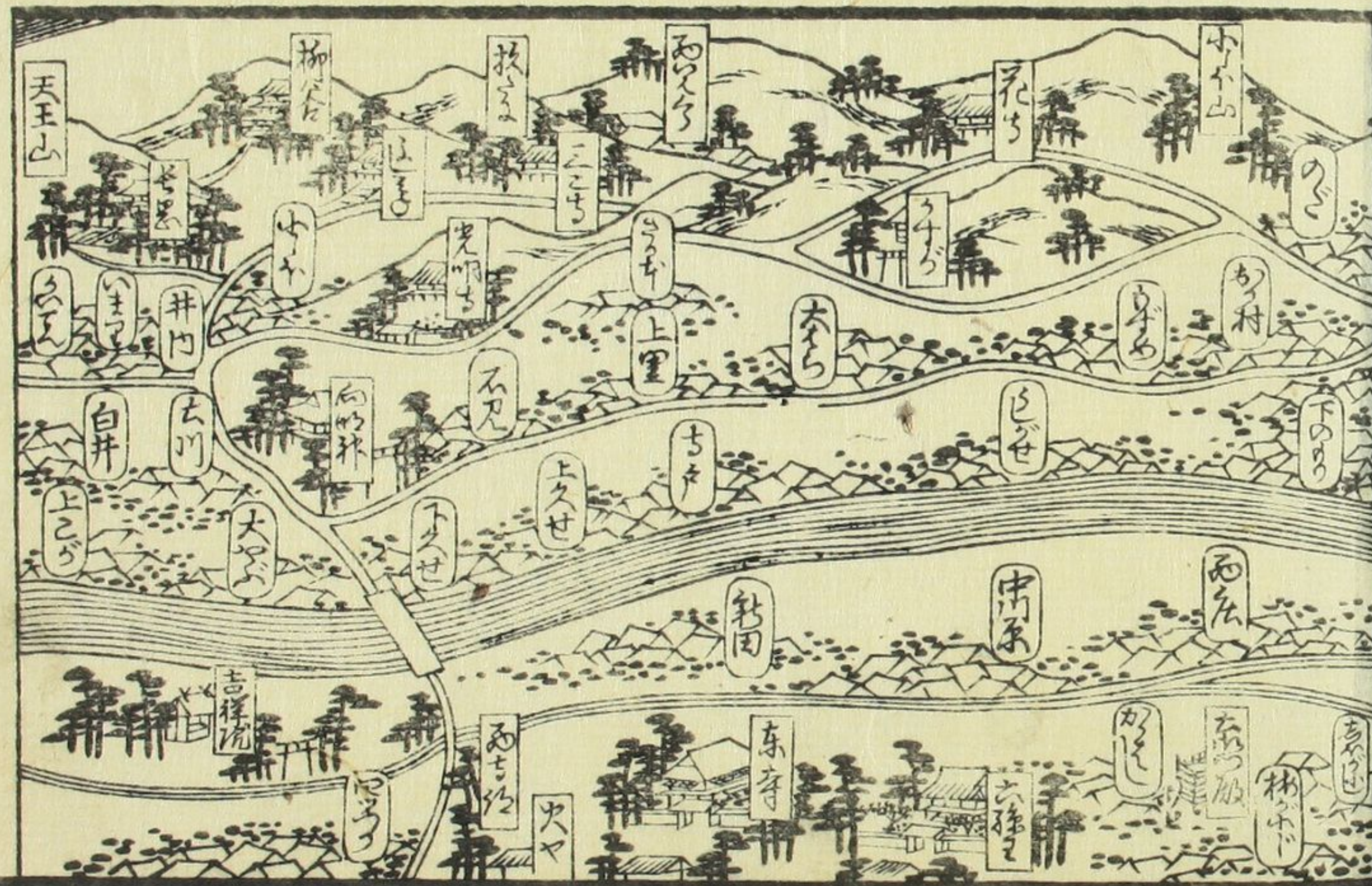
山西

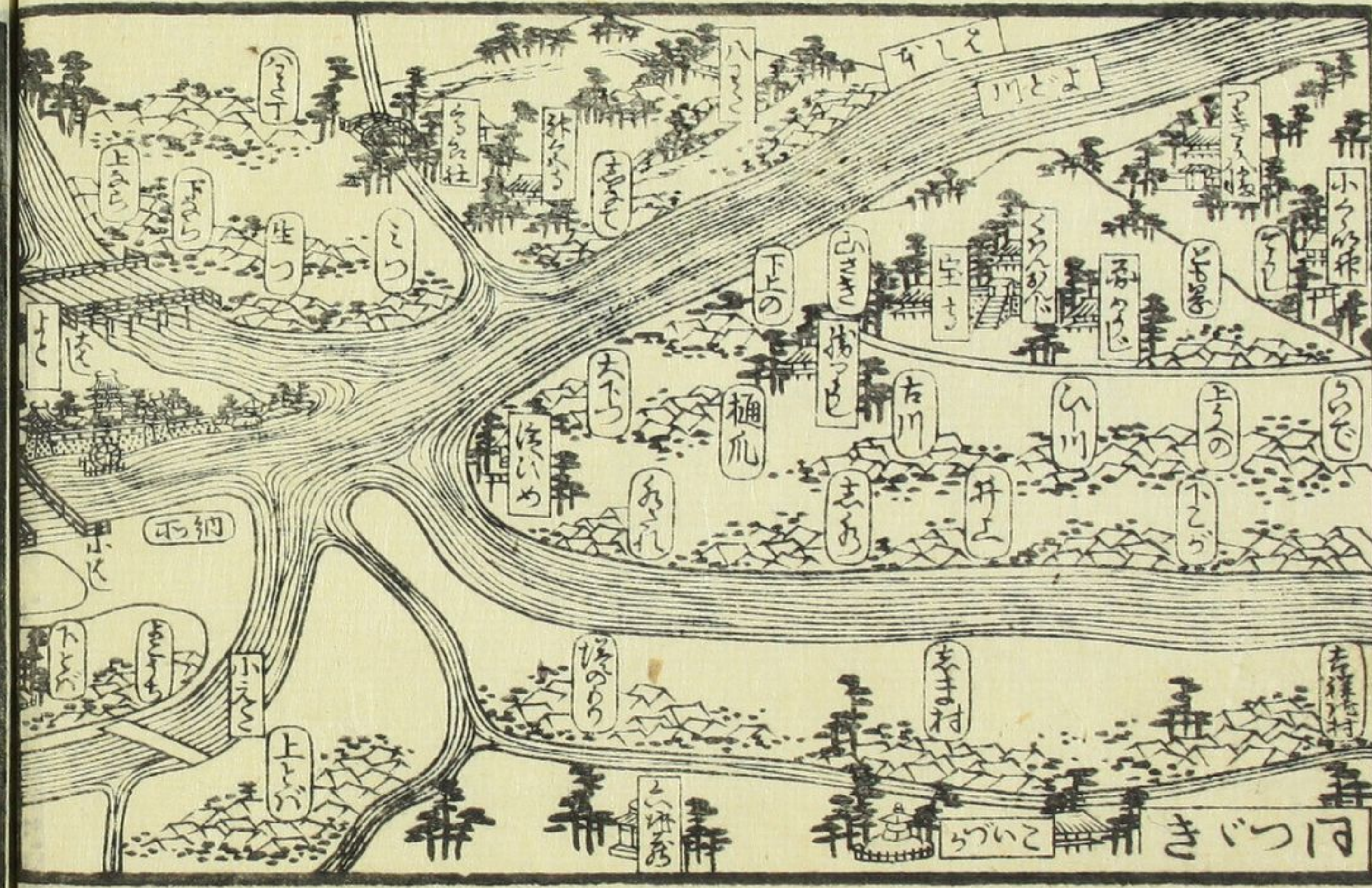
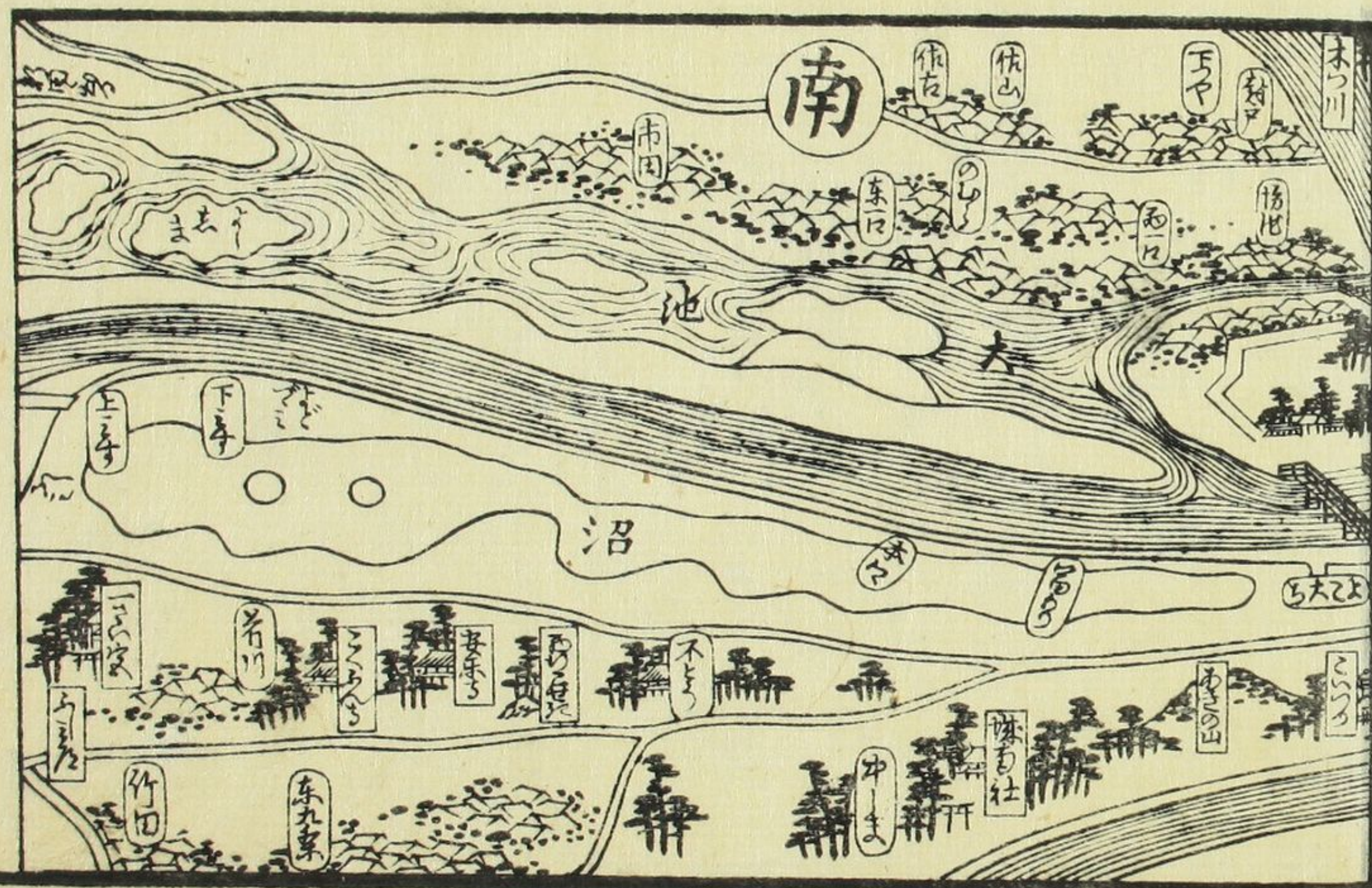


大慈山









内裏

東寺町西馬丸
北へ金堀川南に在り

禁裏御所

東の御門と日の御門南と南門
西と公家門と云々御門内等小

御所云々守年云々正月十九日

御所云々守年云々正月十九日

御所云々守年云々正月十九日

御所云々守年云々正月十九日

御所云々守年云々正月十九日

女御所

禁裏御所云々

仙洞御所

山田極の御所女人御所

大宮御所

仙洞御所云々

京都神社佛閣

寺社号の三所ある丁付の三乘
大橋よりの石法なり

大橋より八丁

六角堂頂法寺

六角通為丸染入
天台宗 寺領石

本尊如坐論親着合像即長一寸

八歩淡路國出雲浦より出況

聖徳太子御建立。西國十八萬九千

池坊 立花の家元 七月七日・み丁にて

誓願寺

寺町三乘トル
寺領十六石九斗

源氏流義の一本山なり本尊阿彌
陀佛長八尺在像春日明神神作と

三丁
天智天皇御草創開山惠照法師・南寺の南より三丁き

三丁
彌心院

菩提寺南
俗和泉式部寺と云

本寺阿彌陀仏 南寺浄堂圓白
及長公草創して小川一葉ありと
あり移す和泉式部と云りて後
けり小移すなり

和泉式部塔 侍小形塔あり

四丁
清常寺

本寺後常地蔵 婦人妻の
りねと云

四丁
大本山圓福寺

寺町南東御通
古刹十八丁

源州原義一本山之本寺の源氏佛
法統上人作

。南業脚 境内あり本寺の南
不像長外天傳教大師の作付
三葉堂ありて水と業脚と稱せ
とあり移す二丁南

六丁
綿天神社

寺町綿中橋の南
時宗

新天満宮 南寺の北東若山親
森光寺河東院六葉通切と云り
一遍上人の甥雪氣上人の住持の六葉根
敷る場として融在大尾伝ひの源流
とありありとせしむる事一丁

六丁
綿後山金蓮寺

寺町綿中橋の南
時宗

本寺の源氏佛堂を浄河上人の甲斐
名所と号す。南より三丁

ぎかんおびあま 日東寺河

感神院浄法くんとんのかみ 毎歳六月七日より

十日と神楽かみはあまのまのあまの
山降やまふりは神楽かみあまのまの

七丁

龍池山天雲院 寺町日東下ル所
浄土宗

本寺の阿彌陀あみだをん作軍書自筆上
人あまのつみ安長やすなが信長のぶなが公浄きよ父子のふた答
の命いのちふつとく平割へいわりせとふ
○信長のぶなが公信きん太たいの坊あり

・こまより下る東通まで法寺あり
とも思ふく南寺の二丁め仏光寺通
とあ、四丁め

十一丁

仏光寺浄門跡 仏光寺通柳の場あり
山形六石八斗

本寺の阿彌陀あみだ慈覺大師じかくだいしの作軍書
親書おんご聖人せいじんの弟子でし子美佛上人しめいぶつじょうじん中興ちゆうけいハ
了源上人りょうげんじょうじん九代目くわいだいめ經光上人きんこうじょうじん前室ぜんしつ白の
檀子だんしとして天台たいたい座ざを教しやくえはた親おんこれ
戒師かいしとしてしよ僧そう山の官くわんとあり
後醍醐天皇ごたいごれいすけの像ざう 桂かへ中ちゆうふ
光明くわうみやうと教しやくらうふより 勅ちやくして仏光寺
とあ、あまのまのまの、三丁め

十四丁

因幡堂平等寺 松平通為丸吉云
俗因幡堂しよいんぱんどう業ごう即すなはち云いふ 一千石

本寺の業師ごうし如來にがは立像たつざう六丁寸むつしゆん親書おんご作
本ほん親おん中納言ちゆうなごん平へいの用もち表あはれ光ひかり於お淨じよ師し
日本にっぽん三さんめ東あづまの二に・六丁め

廿一丁

東本願寺御門跡 東六条
親書おんご百ひやく廿じふ二世にせい親おん如にが上人じょうじんの嫡ちやく子し教しやく如にが

上人けいそう又長七年 台命たいめいと号して草
創そうのよふ本堂ほんどう聖人自作じしやくの像と安き
阿彌陀堂あみだどう本堂ほんどう安の孫まごの作しやく立像たつざう三
尺しちふく・又丁ちやうりく

九六丁

本願寺御門跡

石六条 御門二百八

本願寺親雲外人の御奉教ごんがうして西遊
紀のら十一幸と經けいく文永九年活索
大谷おほや小宗せうそう夜敷よるしきと初はつい本願寺と 勅ちやく
号ごうとすまふそのら兵衛ひやうゑよとくあくふ
後のち天正十九年八月又日またひ地ぢ移うつと
本堂ほんどう立像たつざう長なが針はり人ひと守まも用もち山やま自作じしやくの
像ざう世よ小骨せうこつ肉にくの御新ごあらたと又阿彌陀堂あみだどう本
堂ほんどう立像たつざう長なが三さん尺ふく又日またひの他ほかなり・南みなみに

九七丁

真言寺御門跡

石六条 御門二百八

本堂ほんどうの御新ごあらた安の孫まご御ご立像たつざう真言寺まごんざう御門跡ごもんせきと人
寺てら法ほふ住ぢゆうとあむ文永ぶんゑい年中なちゆう後のち長ながと人
寺てら法ほふ住ぢゆうとあむ文永ぶんゑい年中なちゆう後のち長ながと人
寺てら法ほふ住ぢゆうとあむ文永ぶんゑい年中なちゆう後のち長ながと人
寺てら法ほふ住ぢゆうとあむ文永ぶんゑい年中なちゆう後のち長ながと人

三十七丁

教王護國寺秘密傳法院

大文公案の西

東寺とうじと稱なづすまふ宗そう 平安城へいあんじやう大内おほうち裡らのときれ
御門ごもんかきりしとぞ
又また堂どう増ぞうとて二十九間横よこなる
・四丁よんぢやうやりく

三十四丁

萬福山大通寺

八条指智はちじちあり
寺てら法ほふ住ぢゆうとあむ文永ぶんゑい年中なちゆう後のち長ながと人

南寺なんじの元もと經けい表へい公こうの殿との舎しゃなりしと

天徳中 聖武のち 聖武をあらはす六孫
王 桓範と云ふものより 後余を尊ぶる
後 室三位 藤原氏のひまの空 律師を請
ひしつたつとかな

六孫王 社村と天台の建立
・又丁やりの

三十丁

鳥取城所 千本通東

姓 右天正年 鳥取幕府 乃林又房と
いふ 源人 免符せしめて 假城所を披く
柳の傍に 幕府ありしと云ふ 七年 新
所 鳥取より 千本通 乃林又房 十八
との 朱 藤野より 千本通

二十丁

壬生寺

仏光寺 千本通
寺 千本通

本寺 地蔵井の像 三尺 定綱作
鑑 志和尚 宗基。毎年 三月十日
より 廿四日まで 大会 仏あり 檀越を
かす 壬生 檀越より 七丁り

二十丁

大光山 本國寺

松川 松原 下所
寺 千本通

日蓮 宗 本山 あり 初め 相良 後 宗
松葉谷 あり 法花 堂と 号け 寺
宗 宗 初の 寺なり 七丁 静上人 貞
和 元年 亥 卯 子 寺 七丁北

十二丁

浄土山 空也堂

胡葉 昨 松川 寺

極楽院 光緒 寺 あり 千本通 乃林又房
人 有 作の 像を 委す。後 致 宗と 号ふ
境 内 八 坊 あり 有 發の 僧 寺と 号ふ

と製し毎歳盛會小市申ふ堂り
七丁

十七丁

神泉苑

池通大夏西入
七丁

善女龍王社の池の中央ふありけ池
法成乾池と号す大内親のとき禁
中の龍池なり弘法大内守敏と法力
を多し小町敏と縁とるとのり又
後ふ八位の爵と納り鶴丸の名紙と
鶴の鳴ひありとてつゞもいふこ

北野へ北野

十六丁

二條御城

四十二丁

北野天満宮 社領 又百八十石

天曆九年 右系七条の天子とてふ

その不神託すしくけし西社と建
立すそのら天徳三年 大内氏
公卿社と造立しし人

北野社。後河あり紙屋川と
り。北野下り

四十三丁

平野社

池の乾なり
社領 百石

ある神は原平言階大江に姓の
氏神なり 桓武天皇延暦四年
造りあり。七丁なり

又十丁

金園寺

夜更山の社
寺領 三百石

床院院より後小松院 永承四年
將軍義満公造り三重樓閣なり

と法水院と云ふ三つありて安徳す二
手の子を御吉岡り地木の親吉
と安徳と二つと穿巻頂より入はぬ
三間一面一枚板に板をこらへて金糸と
あやふに金糸をこらへて早子・十一丁系
四十八丁

今官社

紫雲社あり
社名 石石

ありて疫病神なり一系院の心字
山曆又年六月廿七日船岡よりあり
長保二年又月九日ありて一今
牛頭天とて崇めあり・四丁あり

早四丁

龍窟山大徳寺

大雲通を其の南
古外北千四丁

後醍醐天皇御勅所置其基大徳寺
塔頭早四丁あり○志保菴ハ休和

当住居ありて一丁あり

四十三丁

雲林院

紫雲社大徳寺の北
古外 又十丁

淳和帝の御ありて後天曆帝
の御とき傷心遍照と御ありて堂
塔敷きありて今も御ありあり
○是より上り又堂を御ありあり

四十一丁ありて一丁あり

今又新藤

・四丁あり

瑞光院

安徳院の北

性音法師彈正の宅に法ありて
境内赤穂の義士四十七
士の塚あり。赤穂小門義士の塚
輝世の法敷と御あり・二丁あり

三十一丁 卯木山妙蓮寺 寺は四ノ川の

は新宗用基日像上人柳屋仲良
といふその日像をゆゑに宅地を寄
附し柳寺といふ後柳の字をうけり
卯木山と号す其由は付家おけるの
本号として日像上人自筆のまじり
あり後光教院の法号天下大和界守
けまんごを桂川お持の法名のほに
しふ忽ち大和教日おふはとまきより
日蓮上人ふと喜喜庵号を掲ふはあり

三十二丁 東光山浄院寺 五山の北

は新宗開基日像上人・二丁あり

三十三丁 般舟三昧院 今出川系を所

禁裏内通坊と稱す日宗を尊ぶ
て宗山惠言上人を尊ぶ此院坐
像慈尊大所作 帝御代に神降と
安んずと・四丁あり

三十三丁 惠照山淨福寺 一系のあり

淨土宗本尊の法位に弘法大師化
身善源尊上人・六丁あり

三十七丁 一系庚坊 一系堀川あり

安陪晴明十二神を橋下小徳むと
いふ故に世に傳はれしとて古とまき
又淨藏を所又本達人とし橋下を
いふ父が葬送ふり合淨藏をむく
初め一系父福生がより淨藏收んと

はるより又とて死ゆりより戻す
とらへ・四丁北

三十二丁

小川の上立賣
竟天山積聚寺

浄土宗本尊の河原院安河原作
寺付和鳴虎の名栗あり・二丁北

三十二丁

小川の北
具足山妙顯寺

浄土宗本尊として写奉る八目像上人なり
支像釈迦仏の長三寸ありて黄金色日
甚上人持会仏ありとぞ・二丁

新町敷
具足山妙覺寺

門宗開基八目上人橋門の令劉

カキ弘法大師作・四丁東

二十九丁

鞍馬口宗四敷
上御霊社

八洲山具足院天宗二
年小法ありけ此の上を寺なり
固く上出雲の山奥とらへ・六丁東

二十二丁

今出川北馬尾東
萬年山相國寺

又山の第一開基の善念國師明徳
二年足利義満云建五仏殿の經加
也系御社とあり・又丁東

十五丁

寺所今出川下
浄華院

浄土に奉るもの一なり奉堂云法

此上人の像を安置し阿修羅堂の
本尊を安置心の作なり法和天台
新所意多々大脚軍書
の爲代に勅する皇統書一丁有

十四丁

廬山天台講寺

淨土院南とあり
寺在

同宗意多々用是意多々大脚軍書の
元二大脚自作の像

十三丁

中御霊社

上四巻の御所
毎歳七月十八日

八月十八日と神書とあり

九丁

下御霊社

寺跡在右所下ル
社在

此の所上御霊小同

草堂

寺跡在右町
社在

天台宗本尊の十一面観世音菩薩像
此像上人作。西國十九書札所軍書
別ら此像上人上人常不草指と
着十が在在草草とあり。早

五丁

本指寺

右町二条

高田流本尊の弥勒菩薩心作本
堂の書書此の所は社殿とあり

・口下り

六丁

妙塔山妙満寺

寺町二条南

法皇宗同業会の日付上人永徳二年
又月建直世右の法皇塔河あり

しとあふ移す。道成寺後。通

五丁。

本徳寺

寺町姉小北

はた宗用春日隆上人住持の御小
路六角ふあつとてあふらと
。織田信長公の塔

三丁

曼陀羅山天徳寺

寺町姉小南

浄土宗をまゐるの浄院ある作

二丁

大田山金剛寺

天徳寺とも

浄土宗をまゐる浄院ある作

右の法元入里すあり

次の日曜

小徳法
大徳寺

本屋所三東小徳法

本尊阿彌陀を徳寺子作開基のこ
を極寂和尚奉釈國白秀次公の母を
増徳院殿秀次公遊悼のこを建立す
りし。○國白秀次公を介二十人あり
妻の塚銘と秀次勇進塚 俗にさ
寺とふ。大徳寺とふ

大徳法
檀王法林寺

三條大徳寺法林の
浄土宗

本尊阿彌陀を中興寺と名
中興寺と名。至徳神皇御

五丁

圓法山頂妙寺

二東川増寺入
古処 外十石

はた宗子孫目親上人の樓つの一
里慶安の孫の友作と云々
て信人多く・一丁

十丁
聖護院社
聖護院村

徳野之社
法勝之社
一丁

十二丁
聖護院宮
浄家銀千四百石

修務通御奉山
徳我天會
御宇智信
大御守基
十一丁

二十丁
長徳山知徳寺
百万遍
田中村
寺銀二十石

浄土法西田々の一奉古
慈覺大御判
法上人
曾子
勢報
協字
基を
置る
新

廿二丁
加仏慈覺大御作
一丁

千葉山光福寺
百万遍のあり
俗千葉寺と云
六斎念仏の本寺
庚右云ふ千葉
と書し
一丁

一里廿二丁
比叡山持斎
御重中
一丁

御蔭社
下鴨皇太后
神宮
御座の地
之例
糸々
日月中の午日
を式
教を
たり

一里半
赤山社
修善寺村の東
一丁

慈覺大御
歸終のとき
慈覺の
なり
本地
雲の地
飛井
慈覺
大御の
作なり
一丁

林丘寺宮様

修學寺村
御家於三百石

修學院御茶屋

文政 御造矣

一里十丁

詩仙堂

一系寺村
黄檗宗今尾寺

石川丈山の山莊に四壁に唐宋の詩人三十六人の像を懸てその詩を乞す
故ふ詩仙堂と号す。北山御坊と十丁

曼殊院宮様

一系寺村
御家於七百二十七石

一里

北山御坊

御家於村

親善智人齋藤春成も無下
境内に壺水あり故ふ壺水山并
系寺と号す。

一里十丁

仇生山御軍地蔵

白川のふ

本寺のふしの地蔵尊の長二尺は元
永禄年中城郭ありて足利軍陣
と細川時元が築すといふ。

白川御坊

春日社

吉田山あり

白河院年中中納言山内後伯耆守

古岡殿

御家於五百九十石

神祇官御司

十九丁

吉田社

社額五百九十石

日本第一神倉揚清和天皇の御願
親一奉中納言山登の御傳・五丁り

十九丁

紫雲山金瓶光明寺新志谷 百二十石

淨土法を以ての一本も國光大師の御
蹟として敷山を以て其の御願

元祖大師の徳と安んじ。此の御願
。然る谷堂。然る谷堂の御願。勢多堂

赤光大師の御願。二寺塔を奉る文殊
界日本之文殊の二。此の御願

二十二丁

冷聲山真心極楽寺真如堂 百五十石

天台宗法和天皇の御願。是の御願

基本寺の御願。此の御願。此の御願
て是の御願。此の御願。此の御願

二十九丁

若菜山百石

本寺の御願。此の御願。此の御願
んと人法上人の御願。此の御願

御願。此の御願。此の御願。此の御願
りの念仏と云はるの御願。此の御願

日

蓮山安楽寺 口のあり

本寺の御願。此の御願。此の御願
後分。此の御願。此の御願。此の御願

靈鑑寺宮

出家の百五十石

三行 銀周寺

一名慈照寺
古刹 三十八石

得宗天皇御時と宇治と寸文明
十二年我政公別荘に二重の宮
舎を對して銀周と云ふ名の山
水と云ふなり。六丁あり

二十六丁

善光寺

善光寺の傳
傳

南禅寺英仲和尚再興之。馬廻の
手洗鉢名義之。二丁あり

二十四丁

山東山若王子

水鏡を山併
古刹 七十石

天皇家御給道と云ふ事にて本山
を後深宮と云ふ事社於野枝院の
後白川法皇の御傳也。二丁あり

聖徳太子山禪林寺永光堂

古刹
早三石

淨土宗本山所かり法和天皇御勅所
よして其給傳なり其創本寺の阿闍梨
本寺の寺守長三人中與永光律師

十四丁

瑞龍山天平真國南禪寺

古刹
六石

六山の二大明國所開山也 龜山法
白の白土居なりと云ふ傳あり
本寺の親迦文殊菩薩と云ふ事
今地院 本無大権現の古尊家也
いづれとも傳と云ふ事。七丁あり

青蓮院宮

清家父子三尊云

善徳院

善徳天皇山を修徳大

寺子も清上人よりなり

十丁

圓山安永寺 古伝八石四半

山門の別院にて傳教大師の御書
もこの寺に安永の御書に建久年中
知有信の御書と云ふ
寺中六指あり傳教宗古の御書連珠
也の御書に安永の御書と云ふりまも
信養の御書なり

十丁

東山長樂寺 古伝八石

御書傳教大師の御書にて後
時ありわくむ本寺の十二面觀音
寺中六指あり傳教宗古の御書連珠

古書も多し

東大谷

東大谷の御書なり本寺の御書
安永の御書に傳教大師の御書
宣文の中書ありて之縁年中造る

十丁

金玉山双林寺 古伝廿四石四半

古伝天台宗の別院傳教大師の
御書に安永の御書に建久年中
本寺の御書に傳教大師の御書
也の御書に安永の御書と云ふりまも
入る原形の御書に安永の御書

八丁

安井親徳寺

古伝天台宗の別院傳教大師の
御書に安永の御書に建久年中
本寺の御書に傳教大師の御書
也の御書に安永の御書と云ふりまも
入る原形の御書に安永の御書

・三丁

安井御門跡 卅畝 二百八

十二丁 日丁

就高峰山高基寺 古伝 八百八

号又長年中秀若公此の及新由建立
字名禅中興三に和尙宗を奉る
釈迦仏也系此難。廿秋和尙の云云

十一丁 日丁

善徳山法寺 古伝廿三石

佛教大伴中興三に和尙宗
奉る釈迦。此法寺を奉るの由
と云。天徳寺社。日丁

十二丁 上野宮の里別

八坂法親寺 卅畝 二百八

又重伝 八坂の法親寺
浄土宗の所傳ありてなす
六増寺とてえのりてあり

九丁

善徳山法親寺 古伝七十石

西國十古れ所とて宗奉る十一面観
音立像とて又之とて上人作天徳寺
建立。阿古屋敷日松。一丁

十丁

珍白寺 古通と号す

本寺の宗師仏の傳はる大伴の作
又後傳あり。此寺。古通と号す
南寺の法水とて日丁。その
名

經書堂

軍書堂雪徳太子

子安親善

光明皇后存娘帝

と降社一の合に天照を神より

授けしより親善堂に長八すす

所取親善 無七氣氣流所とひて

石ふ照り

田村親善の傳と其す

所金堂

十八丁

音羽山清水寺

古伝百千石

西國十六書札所本堂千石親善大付

二年坂上田村麻呂建立

奥院 本堂の千石親善

地と拉況 大己半人令

音羽池 池に石佛として石堂とて

増減あり 一丁より四丁まで南東の山

中ふ清書 秋中山名新書つと

三丁以内本堂あり

清閑寺

佐伯公の建立本堂千石親善

神の山他に 今金院陵小督が墳

十五丁

本壽寺

山西と東の山とてなるものあり

本堂も大谷地内なり 一丁

大谷

本堂も新敷所

親善堂主人所本堂とて文永九年社創立

東山と西山の北大谷よりなりとて其の長

本堂は山より移すなりとて其の長

山にありとありなりとて其の長

次の日明通

三東大橋を渡り南の堤を通
江戸本町の江戸東通の東の方
に所掛所とあり

江戸
に條芝居

水原年中名古所
こたつ出雲のあらふ
とらつものとき新妓と名む神あり
社中社祇置南林又み東の東橋の南
こて奥のくくふ秀吉公の合ふよつて
是知ふしき・東のけさ北と纏子通
南と建仁寺西とく角

江戸
仲原寺

澤長宗平の指所
去中より出た目痕
地を称し眼病の人を救す
眼あり実なる止地所とあり。江戸

六十
東山建仁禪寺

ちん八百八十一石
高古の竹徑と建仁
五山の月二建仁元年源頼朝が建仁
園を景西禪所。河東院禪寺の
六東の東所ありし若殿のら
川七東の南の瀬にありしと東
官ふおめく引とまじり
は清々毎夜子刻より五十鐘つと
八鐘合く百八鐘とありし
唱へつとき今俗建仁なるとあり

帷子社

建仁寺のありし東
帷子子の東の地所
。是より建仁寺ありし大佛あり
切の寺ありはたは東橋の東

十七丁
大佛餅屋

大仏の南は東橋の南
あり

車塚

此塚の詳伝はのまき故より付記
その級のうらふ詳人の身とまきて実後
小舎りてまき埋む

ちんぎんのみまわ

妙法院宮様 御家代千首三千五

十五丁

大佛殿守屋寺

後陽成院御宇天仁六年冬長尾秀吉
公御建立本寺より西入金形仏中像御
丈六丈三尺仏殿東西外十七間南北に
十尺五寸八寸後光のころ十八間御前
より。樓門全剛力士長一丈四尺八寸
大長七尺八寸高南百二十尺東面百尺
日本五段の大層なり。備子寛政

十年七月二日大火を焼きたり今
ハ重礎のまあり。納経堂は間四角

浄梅 納経堂より五尺五寸
まき四尺八寸のまあり

九尺八寸

十八丁

三十二間堂

後白河院の御釈として備中守平
忠重身約一千餘坪を建て立て
堂長廿六十六尺二寸高を控まらる
よろしく三十二間あり

新目吉社

後白河院御納経

宿禰院

寺代又百石

まき新我々本寺より勅明王無事大

順の作軍山といふ裏に御

二丁丁
崇源院

天皇宗家なる阿弥陀如来を御開示候
初も古政を創軍山に御御法平

二十二丁

今懸野控現

後河津治守御

として経品三懸也三所控現を御す

二十八丁

泉涌寺

古殿 六百八十石

神の弘法大師写真を後文徳帝の
少宮九大臣諸別公再興あつて天台
とかりし人。今皇八十六代御書院より
天子御代の後とかり
佛舍利。楊事妃御書。二丁奥

三十丁

今懸野控現

西園十六書れ不

本より御書書 弘法大師の作

。あつて六丁あり伏見御殿より出せ

卅三丁

東日山宗福寺

古殿千七百十石

同系院延應元年九条乃家公建立
軍山第一國師七堂伽藍建立と云かり
本寺の親近公毎年二月十二日御書
自筆の大涅槃像あり
。通天橋 紅糸多し。八丁あり

三十七丁

稲荷社

社伝 百六石

人皇皇二代元明天皇和州臣年
御祝いの入あり亦此年毎年二月

和牛の目録後編一・十五丁

五十二丁
後津社

社伝 五百石余

全人親このまことある毎年正月各
社より馬あり

○又よりまのまの伏見権山といふ
又此に字通りあり無き方あり

五十七丁
勸修寺宮

社家伝 千十石

○又より五丁より伏見より大津御所

・南へ五町あり

隨心院御門跡

社家伝 六百石

小町水心門より小町より一町あり

三寶院御門跡

社家伝 六百石

関山御所より南に山脈繪の四目

二丁
下碓砌

本寺の業師あり。江戸より右側より
本寺に寄る者建立。上の二丁より

一丁 吉寺 本寺の親吉安ら孫作

あて 寺の
の岐の内付社像

三丁
上碓砌寺

寺伝 旧千石

貞親年中存ら玉より御心あり

本寺に村と碓砌二代の内教寺本寺の
親吉より西國十一番れ下但、女人禁制

・又より岩あり寺く五丁

又南に五丁三丁りてと炭山北丁
あり

二河のり
月地業師寺

法興寺と号す

本寺の業師如來金剛を像と尚も
初めの日也た中夜浴盆をたてて
大寺なりとて。世人の習を
くくるふ異法著し。二十丁

二里半
柳大明神

本場あり

天女宮とある

九十二丁
西方寺

本寺の住持は天竺の僧
一口の漁人住居此所とて者流
細とて得るる徳なり。又丁
二里半

二里半
黄蘗山玉福寺

古伝 四百石

多水尾院は明暦元年建立開山
隠元和尚。十六丁にて

三里
三宮寺

明守中と号す

本寺の子の親善光仁天皇の中
して智徳大師の御書。八丁
○付る不情殿あり
○石居十帖の古伝あり

三里余
常光寺放生院

称 橋寺

本寺の地蔵菩薩等及胎和堂
橋造又と同時建立

日新
離宮八幡宮

本寺の神仁徳二帝及び鬼道

三平 崇徳の御廟 例祭 又月八日

佛徳山真事寺 曹洞宗

仁敏の秘迦仏と安徳守國重公
元和年中興永井尚政再興

朝日山東心院 天台宗

本宮大目如來弘法大師の地
真徳信於別ら七十七身の像を
安徳寺

宇治指 八十二身又又大化二年
熙和造之指中絶一石半法出せし

三三余 寺古く東の水と御寺あり
三三余

平等院 在る所保院定乾の作
永承六年夏自新を建

直仁殿の風堂とかがりたの
と御堂と後のを尾と寺持
雄雄の風堂あり別ち風堂と

○ 高皇太后三位輕政古徳・又十丁の

○ 寺より川隈を流すおけり
伏見寺後指あり

二三余 指月山月指寺 天台宗

御香文 社領三百石

御切倉后の御廟と秀吉を建立
○ 是より東に外里

江戸日記

三條大橋より東へ八丁遊園と云
栗田の遊園は日園茶十八丁と云
十丁丁遊園は入りきりたのこ
一丁小宮遊園は七丁の山田遊園
なるわきまに井原遊園智徳天師
作十三丁の遊園は十三丁の

二里半

三井も親吉

本町の親吉の住居は山田遊園
奥の女人禁地と云へは月十六日
十日日女人禁地と云へは

三井茶屋

恒武天宮山宮の住居は智徳天師の遊園

直なり天智天武持統三代の四降
能く南宮の園遊水と云へは
湯と云へは三井茶屋と云へは
城守と云へは。金巻孫助井
。後巻の寺成お守一切経を納め
。湯後の熱水と云へは。古湯と云へは
。後巻の寺成のまの附と云へは。山田遊園
。湯のまの附と云へは。山田遊園
の熱水と云へは

唐崎大明神

一ツ松名茶屋よりけりし湯水の山田遊園
。上坂茶屋。山田遊園を而り井丁
。山田遊園。山田遊園を而り井丁

一切堂のなり八次の里まじり難所
けりし里

東照宮御社
四里半

山之権現 二十一社

上七社中七社下七社天智天皇御
徳彦。桓武天皇延暦十年神皇
皇御魂よりまゐる。十丁をめぐり

花摘文 傳説大伴の西母をあら

三三知をて日月八百八女人多病をゆり

三里

比叡山延暦寺 寺伝又千石

本物又岳のついで玉珠鬼門小高
まの良峰にも寺桓武天皇御宇

延暦年中傳説大伴建美

根中堂 本寺兼作
傳説大伴作

講堂 本寺大日如來

戒壇堂 本寺釈迦尊

延暦天皇弘仁十四年建立
昨入唐の付漢文又泰山の云とあるは
地と築りふなり。又丁のく赤き水

浄土院 本寺傳説大伴
内所

文殊樓 本寺文殊弁

前座院 本寺傳説大伴

千手堂 千手観音

こよ東堤

つりけ

本寺 善賢寺

法華堂

本寺 親如堂

常行堂

本寺 法華堂

椿堂

如來輪經堂

相輪塔

本寺 相輪塔

元忠谷

本寺 元忠谷

こと而修

お給様横川へ又十丁

横川中堂

本寺 山報音慈堂
大師の作

善有大師教 元三大師の事
此巻の指えあり。是よりふあ、又十丁
矢野里へ又十丁

善勤寺

相如和尙の住持殿后立

辨財天

竹生塔より白地化して

親如の報喜智人の法のある様
ありしとて、自ら結してふ喜
○本寺 母坂不動堂 本寺 不動法眼大
師の作。ころもあ、三里

二里

矢野里

名所 あり

小原里

名所 長持物あり

常修院 榊井宮 浄土教九百五十石

極楽院 本寺の浄土教を傳へ

善光寺の巻

善光寺 本寺の浄土教

真山精林寺 古刹五十石

本寺の浄土教阿彌陀と早守の像長
七尺康成作文治二年秋法隆上人山
門大僧の修徳ありしを本寺より光明
を授けしより傳傳教の阿彌陀と早
と大東四寺と入・大のりまもつまき

三里寺 古刹谷光明山阿彌陀寺 淨土教

本寺の浄土教阿彌陀の作事善徳

上人

浄土の清水 古刹和方ま

寂光院 古刹三十石

弘法大師の作事善徳
古刹浄土教年中建礼の流軍居
のひしより石とあり利門院の浄土教
の浄土教の像あり・古八丁

三里十丁 江文社 本寺の浄土教

古の方より七まがり廿八丁 浄土村
是より廿四丁くまのりありは
古刹あり。大門より本寺まがり
八丁くまのり

三里

松尾山鞍馬寺

社数二百廿六石

本寺は旧河内天延曆十一年壬申に
藤原勢人の奉割。傳正坊傳。八丁り
傳正坊谷井原九岳に於てあり
三丁七丁

貴布祿社

社数十二石

本寺水林園家女神あり
又あまを止るの神と又妻婦の神と
おぼはれる小幡小幡の神とあり
奥の社八丁・東の社八丁・北の社
七丁りの中興社・又丁り市東社
善徳寺小幡の社に由る神あり
又六丁りたしあり

上賀茂社

社数二百七石

本社分家宮古神社は
平安時代のことあり
なりとも社後の山岳あり
実十丁りなる社にあり
人まつ下との社にあり
なり社にあり。十八丁り

下鴨社

社数五百六十石

本社河内宮古神社に
鳳又年造受。分家社あり
・南社とありありあり
大橋ありありありあり

乃は九十五石

次の月明通

二東大橋よりお宿、二里半
東の出ふまふ土居の藪あり是
まご二十丁はふさぶうの東又
山の内村

早六丁

古奈茶所

古奈六百石
磨所寺とらふ

推古天皇の御宇奈川橋造すすむる

茶所の東。ちまき。重徳ちまき
ちまきの傍と申す。ちまきのちまき

・ちまきより橋より過むんごう橋とて
しごが親かきくすむ十八丁ま
南へ早六十三丁り

六十丁

龜龜山臨川寺

淨家寺刹の北

本寺の跡勅弘是利義は云建意字
龜龜山臨川寺 二丁り

六十一丁

龜龜山天龍寺

ちん千七百廿石
又山中

本寺の跡か弘安五年長安園作是
利義の氏云本寺 後醍醐天皇の御
小建意云かす

月所

嵐山

梅の名所 六石水際

大堰川

嵐山の麓桂川

後月橋

太このりち移く・中丁

六十二丁

野々宮

桓武天皇延暦廿二年御後・皇承の

ともな小幡通の古の遺風なり有り
伊勢の弁美ふたむの子女漸三年ふ
如や奇一ふとく。口丁

六十八丁
小倉山二尊院 古伝百十九石
旧宗の志子

本寺の釈迦の孫に二尊の縁に天宮
判削る後法統上人の末裔の一人
・是引の山敷。後山と小倉山とふ
定家山山敷古伝。口丁

七十丁
紙之寺 性生院と号
浄土宗

本寺の孫に法統上人の末裔の一人
紙之寺の末裔の一人
・本寺の末裔の一人

七十丁
三三寺

本寺の孫に法統上人の末裔の一人
本寺の末裔の一人
・本寺の末裔の一人

本寺の末裔の一人
本寺の末裔の一人
・本寺の末裔の一人

七十二丁
念佛寺 本寺の末裔の一人

○本宗一ノ寺 本寺の末裔の一人
○試の坂 本寺の末裔の一人
○大いせ権規 本寺の末裔の一人

三丁
本宗山白寺 社伝六百奉

本殿阿古子山持現お新修特修
 大御前御霊の奉祀御霊持修帝
 大御前御霊の奉祀御霊持修帝
 大御前御霊の奉祀御霊持修帝
 大御前御霊の奉祀御霊持修帝

三丁半

源会山月輪寺

本寺の祖伝高祖師を法統上人親
 魯の魯人月輪殿下の傳心事奉の修
 注師中興の九条実白を改大信美美公
 志公の傳心事奉の魯人の魯人の
 修心事奉の魯人の魯人の魯人の
 魯人の魯人の魯人の魯人の魯人の

大覚寺宮

大覚寺宮 淨土院千六百余
 淨土院千六百余

廣沢池 月輪寺 早乃
 早乃

了海上人座室 常乃池
 常乃池

鳴鶴妙光寺
 鳴鶴妙光寺

本寺の祖伝高祖師を法統上人親
 魯の魯人月輪殿下の傳心事奉の修
 注師中興の九条実白を改大信美美公
 志公の傳心事奉の魯人の魯人の魯人の

三十三

・小川ありき屋敷より早三丁

白米谷は龍寺 千五百餘

本寺の地は直心佛の作事奉
百拙和尚・三丁り

中令堂 妙光寺内

寺内四方あり中令あり・五丁り
五丁

仁和寺宮 赤家千五百石
内室四所と梅す

赤家の山本四國八十八所より
て法人巡行なりめり入又中寺内
梅樹多し多あり・六丁り

早二丁
正法山妙心寺 古伝四百八十石

本寺の釈迦仏宝山の冥山園所

花雲院内建立・早一丁

早一丁
大雲山龍女寺 古伝三百九十石

本寺の釈迦仏宝雲の義天和徳文時
年中細川掃之再建ゆに大徳寺
徳云の山本なり。寺内之池あり
寺より水ありあり・早一丁

早一丁
平等持院 古伝三百六十石

本寺の地は赤井家奉の義徳園所
足利寺の寺建立。足利十二代の本
像あり

・山内よりあり今出川通大徳寺
早一丁
古伝法性寺九里余

○あつちの四郎村より右の方四丁三丁

三田家 ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう

三田家 ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう

三田家 ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう

三田家 ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう

三田家 ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう

三田家 ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう

三田家 ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう

三田家 ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう

三田家 ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう

三田家 ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう

三田家 ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう

三田家 ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう

この日曜日

日東通をぬりて右の敷を越

る深村十九丁より東梅津まで

八町

六丁

社代 六十石

梅官社 ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう

梅官社 ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう

梅官社 ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう

梅官社 ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう

梅官社 ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう

梅官社 ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう

六丁

智福山法輪寺 ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう ちんごう

本寺の虚言を説き及昌法所作天平
年中建直中興通昌傳教。毎年
三月十二日南無三尊の男女兒十三歳
とくくま後群集す。・七丁

松尾社

社領九百三十石

本社多る而大山作林市持世者唯之
大室元平奉為澤とらふ人建を六丁

黄藤宗

黄藤宗

本寺の如き輪観音天竺仏よりて浄土
和尓甚多のそ像なり元平中興
そらの軍居の知あり。・十丁

櫻系村

此の宿屋あり

此のまゝ丹波の太田城を

小塩山勝持寺

信花の寺と云
西りの古社

本寺の業師也其傳教大所作文徳天
白四宇松隆上人中興也。本寺
額中書及風。西り上人書及白梅
坊内桜樹多し。名也。・廿丁

西岩金藏寺

天台宗

本寺の十一面観音青阿目明神也作
中興隆也。傳教。一階二階三階
あり又西岩金藏と云ふ平雲林近也
のそまゝと鐵の口書く經と云ふありふ
此のその一所がらふ也。廿丁

田里余

西山三法寺

田舎の山

本寺の九眼曼陀羅院に親性法師の尊
日本善三の上人がら此寺を築き
中興の善恵上人。南山の修頂のりが
歳より三筆の形に法を修るがゆゑ
名とす

・十丁

西山善峰寺

西園二十番れ西
天香宗

本寺の父子親善法寺河津善三の
親善善三の善徳の善善法善三
人後下東院山守長久二年建立す

小堀山十輪寺

天香宗

本寺の親善善三花山は堂を築き此の
くめ法をひくやりの御教親善善三

・三十丁

粟生光明寺

ち於三十名
浄土宗

西山原義の一寺の本寺善善大師
善徳上人曰く法蓮上人と云き母儀
の法良と云りて此の寺の本寺と云ふ
この寺の正統と云ふ寺は善善善三法師
の寺と云ふ

・十七丁・奥山寺と云ふ

白月明林

社於二十七石

本寺の所屬鶴羽寺不台寺。地元の
林の本殿の善善と云て白月明林と云ふ
此の寺をありきより本寺と云ふ

長岡天満宮

本寺の天満宮法を敷く雪元法を敷

延平の菅野と菅野のふらつりつりあふ
け所ふらつりつりあふと菅野と菅野
の四條坂と菅野の菅野と菅野
菅野と菅野と菅野と菅野と菅野と菅野
菅野と菅野と菅野と菅野と菅野と菅野
菅野と菅野と菅野と菅野と菅野と菅野

三河
本之奥海柳寺
菅野と菅野と菅野と菅野と菅野と菅野

菅野と菅野と菅野と菅野と菅野と菅野
菅野と菅野と菅野と菅野と菅野と菅野
菅野と菅野と菅野と菅野と菅野と菅野

柳谷親音堂
菅野と菅野と菅野と菅野と菅野と菅野
菅野と菅野と菅野と菅野と菅野と菅野

菅野と菅野と菅野と菅野と菅野と菅野
菅野と菅野と菅野と菅野と菅野と菅野
菅野と菅野と菅野と菅野と菅野と菅野

小倉社

奉厳正一位小倉大明神御祭四月
又月之廿二日村の菅野と菅野と菅野
四月二十日村の菅野と菅野と菅野

圓明寺
小倉山の南

菅野と菅野と菅野と菅野と菅野と菅野
菅野と菅野と菅野と菅野と菅野と菅野
菅野と菅野と菅野と菅野と菅野と菅野

親音寺
菅野と菅野と菅野と菅野と菅野と菅野

菅野と菅野と菅野と菅野と菅野と菅野
菅野と菅野と菅野と菅野と菅野と菅野
菅野と菅野と菅野と菅野と菅野と菅野

補陀洛山を積寺
菅野と菅野と菅野と菅野と菅野と菅野
菅野と菅野と菅野と菅野と菅野と菅野

本尊親也高皇代天皇の基天土の
お作也。お出の小越竹玉なり

妙法菩薩

御書

本尊の十一箇親着。千利休の所にて
して團を建てた秀吉は此の御書にて

離宮八幡宮 社殿七百石

南法貞観元年四月十五日
高皇代より建てられた山崎の所にて
より清水浦の所にて建てられた
孝徳天皇の御書にて建てられた
弘仁帝の離宮なり。より離宮八幡宮
と云ふ

大山崎天皇社 社殿

新近江守高皇代天皇の御書
山崎の所の所にて建てられた
御書にて建てられた
と云ふ

淀大川 日本三太川の
山崎より横へて一瀬の所にて
十二丁

石清水八幡宮 社殿七百四十石

本尊奉還天皇玉依姫神御書
御書にて建てられた
と云ふ

淀大橋 淀大川
御書の所にて建てられた

淀内城 門小橋 門孫橋

とまきより横たぬりき明とまむ(権)と
とつゝ知りあふ十丁

一里半
城南宮 社名

おろし不問常とさる目と平不易宮
おろしと標しきる方除き後神とふ
例来九月廿日る羽根の表行田ふの
氏神とす・六丁

北向不動院

本寺より勅明王奥殿大所作通院の
多相上りき御建立・二丁
あり古徳 一丁

安東斎院 寺羽離宮の地

本寺地蔵井定船の作
まより仲中務通と東院通と
二つありと東院行田御所と
つゞまらふと東大橋を早丁身と
仲中務と中まらふと早七八町と

古御門殿 活向梅津村
天文後陽宮の御
御構内と泰山府君御神殿天
社名と唱へ 天文廿五あり

けりき通社松岡名所古御殿と
とつゝ里敷をく又明徳の徳ありき
の清くするまへまの後日別と細
足明徳と若者と後るあへく

洛陽諸巡拜

洛陽法以拜

○天滿宮北又上西中

菅大臣天神 松尾寺新御所

地皇宮天神 門北

醒井天神 醒井寺

東寺天神 東寺中

吉祥院天神 吉祥院村

新衛天神 松尾山

網野天神 門下

一夜天神 生首

天道天神 松尾寺

四國天神 松尾寺

自拜

十一 高松天神 高松西洞院

十二 六角天神 六角地蔵堂

十三 綿津天神 古所尾神社

十四 紙屋天神 本社のうしろ

十五 下中屋天神 本社のうしろ

十六 安徳天神 古所尾神社

十七 菅家天神 本社のうしろ

十八 高良天神 本社のうしろ

十九 水天天神 城川上五ヶ所

二十 清和天神 本社のうしろ

廿一 奥園天神 小豆島神社

廿二 文子天神 山崎二所

廿三 経巻天神 新向神社

廿四 杜野天神 杜野天神

○ 治陽二十三所観音

一 六角堂 六角本洞院

二 長令寺 城美所の地蔵

三 草堂 古所尾神社

四 下湯堂 日地

五 新長谷寺 吉田山合

六 吉田寺 黒谷山

七 長束寺 赤山

八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九

七親者
善徳寺
地花院
清水奥院
日本堂
法念堂
春春堂
六波羅
物念堂
善徳院
善徳院
親者

下川寺の親者
善徳寺の親者
清水の親者
日本堂
日本堂の
日子女の場
松原建徳の
大仏堂の
泉涌寺
之徳也

二十 廿一 廿二 廿三 廿四 廿五 廿六 廿七 廿八 廿九 三十

泉涌寺
法性寺
成具寺
東寺
長春寺
一善寺
山運寺
親善寺
西蓮寺
長安寺
地花院
親善寺

揚子親者
本宿門の
本丸
倉庫
松原寺の
西蓮寺の
山運寺の
長安寺の
日本堂の
日本堂の
日本堂の
日本堂の
日本堂の

三 天王寺 口紅梅殿のあり
三 清和院 七年甲子年より

○四十八軒所あり

一 智徳寺 後中務大臣のあり
二 休勢寺 藤原氏のあり
三 淨徳院 西ノ東
四 東光寺 右ノ東
五 西方寺 北ノ東
六 大慈寺 下ノ東
七 淨福寺 日ノ東
八 石像寺 寺ノ東

九 無量寺 石像寺ノ東
十 祿念寺 石像寺ノ東
十一 報務寺 安古居ノ西
十二 報恩寺 上ノ東
十三 冥持院 中ノ東
十四 西置寺 寺ノ東
十五 光明寺 寺ノ東
十六 阿彌陀寺 日下ノ東
十七 佛陀寺 門ノ東
十八 善如堂 東山
十九 淨花院 寺ノ東
二十 安養寺 川東ノ東

巽 了蓮寺 日 湯島
 巽 安壽寺 日 河
 巽 高福寺 日 晴美
 巽 誓願寺 日 三喜

○ 法華寺
○ 下ハ一致△ 京ハ指ガ
 事ニ下ガハ本心

一 本園寺 日 本城川下
 二 瑞光寺 日 一河
 三 妙光寺 日 小
 四 華光寺 日 出
 五 直本寺 日 出
 六 本光寺 日 本

七 本光寺 日 本
 八 妙蓮寺 △ 本
 九 妙光寺 ○ 本
 十 妙光寺 ○ 本
 十一 妙光寺 ○ 本
 十二 妙光寺 ○ 本
 十三 妙光寺 ○ 本
 十四 妙光寺 ○ 本
 十五 妙光寺 ○ 本
 十六 妙光寺 ○ 本
 十七 妙光寺 ○ 本
 十八 妙光寺 ○ 本
 十九 妙光寺 ○ 本
 二十 妙光寺 ○ 本

五 妙法寺 △ 日二条下
 六 頂妙寺 ○ 二条川東
 七 奉徳寺 △ 与阿部下

○ 地蔵北田所

一 土生寺
 二 万年寺
 三 光林寺
 四 勅学院
 五 休勢寺
 六 善想寺
 七 法正寺

八 地蔵院
 九 淨福寺
 十 長策寺
 十一 石像寺
 十二 地蔵院
 十三 蓮巻寺
 十四 與聖寺
 十五 西林寺
 十六 三福寺
 十七 安名寺
 十八 安田寺
 十九 法常寺

田代地蔵
 紙川方面

一乘寺二条
 軍出地蔵
 二条二条

二条寺二条

二条寺中は橋
 二条寺大

天祥のつゝ
 二条の地蔵
 二条の地蔵

川東地蔵

日下

古河二条上

後若地蔵
 古河地蔵

北 了建寺 北人の地蔵 口津島と云
 世 十住心院 深敷地蔵 口津島と云
 世 仲源寺 目やしの地蔵 口津島と云
 世 十輪院 あまののり
 世 六波羅寺 日本を鑑む

○ 六地蔵

一 雲霧池 雲霧池のけ
 二 山科 山科のけ
 三 伏見 伏見のけ
 四 常盤 常盤のけ
 五 桂 桂のけ

